

令和2年2月3日 市長定例記者会見 会見録

【司会】

それでは、ただいまから市長定例記者会見を開催いたします。先ほどご案内しました通り、本日もライブ配信を行っております。本日の話題は1件です。市長よろしくお願ひいたします。

【市長】

はい、分かりました。もう早いもので2月になりました。冒頭申し上げておきたいことがあります。

先週動きがあったのはご承知の通りですね。28日の火曜日には厚生労働省が新型コロナウイルスの感染症を指定感染症として定める決定をしたと。その翌々日の30日の木曜日には、WHO世界保健機関が国際緊急事態宣言を発したということでもあります。行政機関として静岡市もこのことについて危機管理マターとしてきっちり対応しなければいけないというふうに思いますので、現在の対応状況と今後の対応について、若干、皆さんと情報の共有化をしておきたいというふうに思っております。その翌、WHOの次の日ですね。31日の金曜日に、私たちは危機連絡会議を、危機管理課のある3階で開催いたしました。この危機連絡会議は次長級の森山危機管理総室長を本部長として、市内関係各課に集まってもらって開催をしましたが、その目的は、この新型コロナウイルス感染症の正しい情報、知識、そして対応方法を共有化する、これが第1の目的であります。オール静岡でこれを取り組んでいく、臨んでいくという体制を整えたということでもあります。

で、この静岡市役所だけではなくて、市内の27の病院、あるいは静岡清水の医師会、歯科医師会と情報を、提供を随時するとともに、静岡県との連携も必要ですし、また、保健所を擁している政令指定都市浜松市との情報の共有も図ってまいりたいと思っております。

また、官民連携も必要であります。人の集まる場所、例えばホテルとか旅館等の宿泊関係の業界の皆さま、あるいは映画館やコンサートホール、ライブハウス、ボウリング場等々興行関係を営業されている方々、あるいはスーパー銭湯であるとか、あるいはサウナであるとか、公衆浴場関係の営業者などに留意をすべき事項、いわゆる施設の衛生管理や感染がもし疑われるものが発生した場合の対応方法について情報提供、通知をしたところであります。ただし、まだ静岡県内で感染者は一人もおりません。全国的に今、非常にこのことがトップニュースになって喧伝をされておりますけれども、まだ静岡県内では感染者が一人もいないということでは、危機管理はしなきゃいけないけれども冷静に皆さんには対応していただきたいということをお願いいたします。

行政機関、市としての今後の対応としましては、保健福祉長寿局や保健所が中心となり感染症に関連する、市民の皆さん、あるいは医療機関からの相談を、随時受け付けていきますし、また、医療機関との連絡調整あるいは訓練ですね。防護服を着装する、例えばそういう訓練であるとか、必要に応じて医療関係者との連絡会の開催も行なってまいりたいと思っております。そして、今月来月の、例えば3月2日の静岡マラソンは何万人のお客さんが静岡にいらっしやいますし、また3月の13、14、15にはおでん祭りが開かれます。こういった大規模なイベントが開かれる場合には、参加者の

皆さんにマスクの着用、あるいは手洗いうがいの励行等々を推奨をしていくこともしていきたいと思っております。私からは今のところ以上であります。また質問は受け付けたいと思います。

さて、今度の、今日の話題に移ります。令和元年度の2月の補正予算案についてであります。これは財政局と既にレク済みでありますので、市長の言葉としてこの概要について説明いたします。

今回、2月定例会に提出する補正予算の規模は、一般会計が約70億3,000万円の増額、特別会計が約19億4,000万円の増額、企業会計が約1億9,000万円の減額、総額では約87億9,000万円の増額となっております。公共投資を呼び水にして民間投資を促し、経済の好循環を作っていく、これが、私が従来、申し上げている経済活性化の手法であります。ここに基づいて地域経済の活性化をキーワードに、一般会計の2月補正予算の規模としては、過去10年間で最大の大型補正予算を編成いたしました。

とりわけ地域経済の活性化に向けては、国の経済対策を最大限活用しております。国においてもご承知の通り、いわゆる15カ月予算、補正と当初を組み合わせた15カ月予算としてパッケージにして、経済対策をしていくという方針を打ち出しておりました。そこをしっかり私たちは連携をして、2本柱で補正予算を編成し、令和2年度の当初につなげていこうと、我々なりの15カ月予算という発想であります。この補正予算の2本柱というのが、教育環境の充実と社会基盤の整備という項目です。

まず、1本目の柱、教育環境の充実については、児童生徒の創造性と情報活用能力の育成、安心で快適な教育環境の実現のため、よりいっそうの教育環境の充実を図っていくという目的のため、具体的には児童生徒1人1台のパソコン、これタブレットでありますけども、パソコン配備に向けたネットワーク環境を全ての小中学校に整備をしていきます。一方、昨年来の小中学校へのエアコンの設置について、令和2年度中に予定していた中学校への設置を前倒して行います。小中学校合わせて51校の普通教室にエアコンを設置する経費を計上するとともに、全ての小中学校の図書館にも、これはPTAはじめ現場からの要望がありましたので、エアコンの整備をしていきます。学んでいる教室はエアコンがあつて図書室はあつじやあね、なかなか本を読む環境ではないので、このところも充実させていきたいなと思っています。

さらにエアコンとは別に、小中学校のトイレのリフレッシュ事業も、トイレの洋式化とか、あるいはブースの改修であるとか、学校施設の維持管理上必要な改修も、この経済対策の一環で実施をしていきたいと思っています。

次に2本目の柱は、社会基盤の整備についてです。国が実施する国道1号静清バイパスの清水立体化事業に対する負担金を計上しました。さらに、これは現場からずいぶん要望が強いんでありますけども、未就学児などが集団移動する経路や、転落の危険性がある用水路へのガードタイプなどの設置を進め、安心安全対策をさらに充実していきたいと思っています。一方、清水港日の出岸壁の改良工事、これは私、ポートセールス、先月行ってまいりましたが、大型クルーズ船の増加に対応した負担金を計上しました。

以上2本の柱でありますけども、さらに5大構想を推進するため、歴史文化施設のサテライト施設として位置付けられる東御門と巽櫓の展示の改修、あるいは老朽化した東御門橋の架け替えもこの

際実施していきます。併せて、人々を3年以内にオープンする歴史文化施設へいざなう道路の整備を行っていきます。また、交流人口拡大のため、大浜公園プールのリニューアルも着手し始めますし、民間活力によるPFI事業で行うためのアドバイザー業務であるとか、東京 2020 大会の公式事業としてのライブサイトを開催する経費を債務負担行為にて計上いたしました。この結果、予算額の累計は一般会計が約 3,328 億円、特別会計が約 2,326 億円、企業会計が約 759 億円、総額では約 6,413 億円となりました。以上が2月補正予算案の概要です。

【司会】

ありがとうございます。先ほど冒頭、静岡マラソンの開催、3月の8日でよろしいですね。3月8日、静岡マラソンは3月8日ということでご承知おきください。

【市長】

はい。

【司会】

それでは、ただいまの発表項目につきまして、ご質問がある方はお願いしたいと思います。どうでしょうか。はい、NHKさん。

【NHK】

NHKです。2月補正後の今年度の累積予算額、過去 10 年で最大ということですが、これ確認ですが、今の静岡市になっても最大ということでもよろしいかということが1点と、過去最大になった理由として何があるか、静岡市の独自事業が増えているのか、あるいは扶助費が増えているのか、あるいは国、県からの権限移譲が増えた関係でのお財布の移動のことなのか、市長の認識をいただきましたら。

【市長】

はい、分かりました。まずは一つ、今の市政運営、昨年、私がマニフェストで掲げた、この4年間は経済の活性化というものを中心に据えて公共投資をしていくと。それまでの8年間は財政の健全化というものがキーワードに対して、これから4年間は経済の活性化ということを積極的に、市政運営の中心として行っていく。そのための5大構想であり、3次総の後期だよということでもあります。その方向性と、国が今回先ほど申し上げた通りの 100 兆円を越える当初を準備をするという中と、きちっと連携をしていくということでの予算になったという理解をお願いしたいと思います。

【NHK】

静岡市政、今の清水と合併して以来最大ということでもよろしいかどうか、財政局でも結構ですが。

【市長】

財政局長。

【財政局長】

今日の確認している中で、今回の補正予算は過去 10 年ということで書きました通り、10 年で、一応確認しております。また、再度、変更するようであれば私の方でまたご連絡させていただきますけれども、過去 10 年間で最大ということで今回発表させていただきました。

【NHK】

この2月補正単独というよりは、1年間の累積ということで当初から。

【財政局長】

今回は補正予算として過去最大というふうに発表させていただいています。

【NHK】

補正後の予算額としても過去最大ではないですか、累積としても。あるいは過去 10 年間。あまり2月単独で最大かどうかというよりは、年間通じてでおっしゃっていただく方が。

【市長】

これまた後で調べます。私がさっき発表したのは、過去 10 年間で2月補正予算の規模としては最大の大型補正予算を編成したということをアナウンスしたということですので、別の次元での質問ですので後で答えます。

【司会】

はい、産経新聞さん。

【産経新聞】

産経新聞です。新型コロナウイルスの件で教えていただきたいのですが、静岡市にはクルーズ船が入ってくる清水港がございます。2月、3月あたりで中国からの来港の予定があるのかどうか、そして、清水港での検疫対策がどのようになっているのか教えてください。

【市長】

これ、そうですね。手元に資料がありませんので、2月、3月のクルーズ船の乗船、寄港、そしてその客層を分かりましたら、お願いをいたします。

【海洋文化都市推進本部】

海洋文化都市推進本部です。2月、3月の寄港予定ですが、現在3月9日の月曜日、スペクトラム・オブ・ザ・シーズという過去最大の客船が予定されております。聞いているところによりますと、中国人が多いというお話ではありますけれども、ファーストポートと呼ばれる港ではございません。ですので、最初にまずファーストポートで検疫をした上で清水港の方に回ってくるという状況になっております。以上です。

【司会】

よろしいですか。NHKさん、はいどうぞ。

【NHK】

すみません、これも部局からのご回答で結構ですが、二つありまして、補正予算案の中でオリパラのライブサイト事業の中で、交流国という表現をされていますけれども、少なくとも国は台湾も念頭に国と地域という言い方されているので、静岡市として交流国という言い方で言ってしまうのか。ちょっと、たぶん統一的な見解を示していただく方が後々混乱がないかと思しますので、今この場でなくても結構ですが、ご見解お示しいただきたいというのが一つです。それについて今何かありますか。

【市長】

これも後で、なかなか微妙な問題、国際問題ですのでね。

【NHK】

はい。新型コロナについて私も伺いたいのですが、先週の会議、取材していて、ちょっと私も気づかなかったんですけど、指定感染症病院が市内、静岡病院だけで一種で2床、二種で4床で6床しかないということで、消防からも不安の声が上がったということをお伺いしております。

【市長】

どこが不安なのかな。

【NHK】

消防、消防局からもそれ以上の搬送が出た場合どうするのかと、これはお互いもちろん、島田市民病院にしる富士中央にしる、地元の患者を対応優先したいわけですが、この辺りの連携とか協議って、何かお話されていることあるんでしょうか。

【市長】

これも先ほど申し上げました通り、連携体制をしっかりとっていくということで指示をしたところです。

【NHK】

具体的に病床の融通のし合いなど、今から想定して議論されていること、局のほうでは何かあるんでしょうか。

【市長】

保健福祉長寿局は今日、来ていますか。

【保健予防課】

保健所の保健予防課です。よろしくお願いします。今のご質問なんですが、第二種の感染症指定医療機関につきましては、県内に10病院あります。それで静岡市内については静岡市立病院ということになっています。ただ、今の時点で連携しているかということについては、まだ具体的には各病院の方でどうのこうのというような話し合いはしておりません。ただ県の方で指定病院を集めた、また会議があるという話は聞いていますので、そういった情報をまた仕入れながら、そういう事態があった時に保健所がまた関係医療機関の方へ連絡して、それで速やかにまた搬送するような、そんな体制を整えていきたいと考えております。

【司会】

それでは続きまして、幹事社質問に移りたいと思います。幹事社さん、よろしくお願いします。

【毎日新聞】

2月、3月幹事の毎日です。よろしくお願いします。

すみません、私も予算に関して1点質問なんですけれども、2月の補正予算案の中で、5大構想の中の一つとしても進められている海洋文化施設の開館が、当初より11カ月遅れる見込みであることというのも明らかになりました。これに対して市長の受け止めに教えてください。

【市長】

はい、分かりました。これは財政局との記者レクの時に、海洋文化推進本部も同席をさせて質疑があったと受けております。私の言葉でこのことについてお話しをさせていただきますと、5大構想の一つ、海洋文化の拠点づくりの目玉事業でありますので、やはりこの公共投資に対しては、しっかりした現実的な対応をしていかなければいけないと私自身考えております。満を持した今後の計画実施をしていきたいというふうに思って、この期間を設定しました。

これはもう、ご承知の通りでありますけれども駿河湾をテーマとした清水でしか実現できない海洋地球総合ミュージアムとして、水族館と博物館といったこれまでのミュージアムの垣根を越えた、大変ユニークな新たな視点のミュージアムを目指しております。そこにおいて、記者、ここがすごく大事なところなんですけども、いわゆる学術教育施設と観光エンターテインメント施設の両立を、この施

設に私は期待をしております。そこで、これをこれから運営していかなければいけません、官民連携で運営していかなければなりません。一般的なPFIの事業では、いわゆる事業者グループと呼ばれる企業の集合体が、施設的设计・建設・運営をグループ内で完結をさせていくという運営方法を採用するケースがほとんどでありますけども、今回はやっぱり東海大学海洋学部という研究団体、学術団体、大学ですよ、ここに水族管理を委託するという特殊なケースであります。ですから、事業者グループと東海大学が運営計画に関して綿密な協議の上、合意をするために必要な時間と、加えて、水族館機能と博物館機能の融合という施設整備を着実に進めていくために、展示計画の事業提案書の作成に当たっても、東海大学の、そしてまた、これも連携相手である海洋研究開発機構JAMSTECの学術的なコンテンツも最大限活用できるように、一般的な施設以上の十分な提案期間、時間を設けることにいたしました。

事業性と公共性をどう両立させるかという問題にもなると思うんですね。公共性って言ったらいいか社会性って言ったらいいかね、そここのところが一番、我々とするときと留意をるところだろうと思います。ですので、まさに世界水準のミュージアムを産学官民一体となって、これから整備をしていくために必要な時間を確保した結果とご理解をいただければと思います。以上です。

【毎日新聞】

ありがとうございます。

【司会】

それでは続きまして、各社さんからのご質問をお受けしたいと思います、いかがでしょうか。静岡朝日テレビさん。

【静岡朝日テレビ】

はい、静岡朝日テレビです。前回の定例会見の中で、清水庁舎の入札事業者がなかったという話があって、やり直すというお話だったんですけども、その際に、事業者にもう一度ヒアリングをすることだったんですが、そこでヒアリングをした結果、何か問題点、改善点などはありましたでしょうか。

【市長】

これも定例記者会見でも言及したかな。PFI事業で始めるものですから、事業性と社会性、事業性と公共性この両立というせめぎ合いの中が非常に難しいポイントですのでね。それに向けて鋭意検討しているというふうに、私のところには報告に来てはいますけども、企画局、アセットの方から何か補足をすることがあれば付け加えてください。

【公共資産統括監】

はい。公共資産統括官の吉井と申します。ヒアリングにつきましては、今現在まだ進行中ですので、

まだこれからヒアリングの結果をもって検討分析したいというふうな段階でございます。よろしくお願いいたします。

【静岡朝日テレビ】

すみません、加えてもう1点、先ほど幹事社質問でありましたように、清水区の海洋文化施設の件もPFIという手法が採られて、清水庁舎の方もPFIという手法が採られて、どちらも入札が予定通りには進んでないということなんですけれども、その2件踏まえた上で、市としての受け止めというか、どういったところに問題点があるというふうにお考えでしょうか。

【市長】

これは公共経営全般に言えることでありますけども、やはり新しい時代に入ったということで、テキストのない公共施設の整備をこれからチャレンジしていかなければいけないということなんです。公設公営でやれば一番楽です。全部、税金でその後の運営もすると。しかし、それによって赤字を一般会計から補填をするというやり方ではもう財源が厳しい折、難しいという時代になってきています。当然ながら民間資金の導入、民間活力の導入という意味での手法の一つであるPFIを、これから一つの大型投資であればあるほど、あるいは後の運営ということも考えれば委ねていかなければなりません。ですので、民間事業もやはりこれが社会性の高い事業だから非常にやりがいはあるけど、一方でちゃんと民間企業が参加をする事業性の担保をしなきゃいけない。我々はそのところを、民間の企業の論理というのは分からないわけですから、そこできちっとした慎重な詰めをしていかなければいけないという、一つの新しい挑戦であると。そのために十全に時間を取っていただくというのが私の方針だというふうに申し上げたいと思います。

【静岡朝日テレビ】

入札の予定がどちらもずれ込んでいるということに関しては、新しいことへの挑戦ということで、もう少し綿密な打ち合わせが必要だったということでしょうか。

【市長】

おっしゃる通りです。ただ、私バックキャストで考えて行きますので。これちゃんと総合計画上、工程表作ってあります。なので、この総合ミュージアムにしても、いつ供用開始という締め切りは決めていますので、そこには間に合わせるようにねということを担当の所管には伝えてあります。

【静岡朝日テレビ】

ありがとうございました。

【司会】

NHKさん、どうぞ。

【NHK】

すみません、関連して海洋文化施設についてなんですけれども、その中でもたぶん、サウンディング調査にも話、出ていると思うんですが、想定入館者数が大幅に下回ったときに、入館料収入の補填をある程度考えるというロスシェアの考え方について、私、これ非常に重要な話で、市民に対して説明なされなければいけない説明だと思うんですが、確か9月定例会では統括監のほうから、そのロスシェア、プロフィットシェアを導入しますという比較的短い言葉で言及されただけで、これ市民の皆さん分かっているのかなという、ちょっと心配をしておるのですけれども、それで私どもの報道ではそこもしっかりお伝えしなくてはと、12月に報道したところですが、この辺りのことも入札を開始する段階では、業者だけじゃなくて市民に対しても明示的に、こういった入館者数になったらこういった補填があり得ますよということは説明なさるのかどうか、お考えをお聞かせください。

【市長】

そのことも含めて、先ほどの幹事社さんの質問に私は答えたつもりであります。そういう専門的な議論を、今、事業者さん、東海大学を交えて静岡市もそこにコミットしてやっているという理解でありますので、そこのところはぜひご承知おきお願いしたいと思います。

【司会】

よろしいですか。ありがとうございます。それでは以上で本日の定例記者会見を終了させていただきます。次回は2月18日火曜日、午前11時からとなりますので、よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。